

電力技術研究会シリーズ

配電専門部会は以下の4項目を活動方針として取り組んでいます。

- 価格競争力強化のための技術開発
- 総合的なエネルギー供給に関する技術開発
- 環境保全に関する技術開発
- お客さまから選択されるための技術開発

第90回部会では、配電設備の劣化診断や分散型電源の系統連系に関する内容等、配電部門に関する様々な技術報告を行い、意見交換を行いました。

第91回部会では、浜松ホトニクス(株)豊岡製作所やJECTECを訪問した他、風力発電設備の視察および配電線連系についての意見交換を行いました。

浜松ホトニクスの訪問では、ノーベル物理学賞で有名なニュートリノ検出に用いられた光電子増倍管やその他光技術を用いた製品の製造状況等について視察を行うとともに、配電設備の劣化診断への光技術応用について意見交換を行いました。

また、会議の場では単機容量1900kWという国内最大級の風力発電設備(静岡県磐田郡竜洋町)に対し、運転力率等の詳細な連系技術検討により配電線連系を可能とした事例について、委員から高調波等電力品質に与える影響についての確認や、配電線ループ運用に

配電専門部会

よる分散型電源の連系許容量拡大の可能性について提案を受けるなど、活発な議論および意見交換が行われました。



浜松ホトニクスにて 社外専門委員の紹介
後列右から、横水、佐藤、長坂、松井景、渡邊、松井信の各専門委員



会議状況



風力発電設備の視察状況

第8回リサイクル技術開発本多賞受賞

第8回(平成15年度)(財)グリーン・ジャパン・センター、リサイクル技術開発本多賞授賞式が1月26日、大阪市内にて行われ、賞状ならびに副賞が受賞者に贈呈されました。「リサイクル技術開発本多賞」は長年、廃棄物リサイクルの分野に携わってこられた元大阪市立大学工学部教授故本多淳裕博士が、自らの著書出版印税をリサイクル関連分野に従事する研究者、技術者へ提供・研究奨励する制度として提案されたもので、リサイクルに関して先導的な事業を行つた財グリーン・ジャパン・センターの事業目的に合致する制度として平成8年度に設けられました。

本賞はリサイクル技術に関する優れた研究論文および技術論文発表を行った国内の大学、高専、公的研究機関、民間企業の研究者・技術者を対象としており、表彰件数は毎年2件以内で、各界で認められている権威ある賞です。

今年度、当社からは、伊藤博之さん(電力技術研究所)による「スチールグリットを利用した小型遠心式プラスチックシステムによる産業廃棄物削減技術」(共同開発先=新東サープラス(株))の技術論文が受賞しました。

現在、燃料油タンク等のメンテナンス現場におけるプラスチック技術は、けい砂を利用したサンドプラスが主流ですが、使用済みの廃砂(塗膜片、錆、スケール

等含む)が産業廃棄物として大量に発生するという問題があります。今回受賞した技術は、プラスチックに数千回の繰り返し利用が可能なスチールグリットを用い、現場で投射・回収・再投射を同時に行うよう遠心式プラスチック装置と真空回収装置を組合せ、さらにこれらをコンパクト化し自走式ロボットとしてまとめたものであり、サンドプラスに供された廃砂という産業廃棄物をゼロにできる技術です。このシステムの採用により発生量をゼロとすることが可能となりました。

本技術は、当社をはじめ石油化学工業・建設業など多くの分野への適用も可能であり、従来埋め立て処分されていた大量の使用済みプラスチックのゼロエミッション化を達成することができれば、最終処分場の延命にも貢献しうるものと期待されます。



表彰状



表彰される伊藤さん



講演風景